

「海を守るために」

天理中学校 3年 紺谷 理乃

4年前の夏頃、全国のレジ袋が有料になりました。そして、2年前様々な店舗がプラスチックストローを廃止し、紙ストローでの提供を始めました。今までただで貰っていたものにお金がかかる、また、紙ストローを使うことで飲み物の味が変わってしまう、このことで不満を持っている人を見たことがあります。では、レジ袋は有料に、プラスチックストローは使われなくなったのはなぜでしょうか。それは、プラスチック問題の影響です。

私たちの住む地球上には様々な問題があります。現在、世界的な問題になっているのが、海洋プラスチックと呼ばれる海に漂うプラスチックごみです。海洋プラスチックはすでに1億5000万トン存在し、さらに毎年約800万トンが新たに流入していると推定されています。

海洋プラスチックが増え続けるとどうなるのでしょうか。海洋プラスチックは海が汚くなるだけでなく、海の生き物やそれを食べる人間などにもさまざまな影響を与えます。海の生き物が、浮遊するプラスチックごみを食べ物と勘違いして飲み込むという問題を聞いたことがあると思います。捨てられたプラスチックごみは、海の波などで削られ、5ミリ以下になったものが「マイクロプラスチック」と呼ばれます。そのマイクロプラスチックが魚や鳥の体内から見つかっているのです。この世界は食物連鎖で成り立っているため、プラスチックによる影響は魚や鳥だけにとどまりません。プラスチックを体内に取り込んだ魚や鳥を食べることで、私たち人間の体の中にもプラスチックが知らないうちに蓄積されていく危険性があるのです。

では、なぜプラスチックが海に流れ込むのでしょうか。海洋プラスチックの主な原因は、適正なごみ処理がされなかったプラスチックごみです。例えば、道端や観光地など屋外に放置・ポイ捨てされたプラスチックごみなどです。海洋プラスチック問題の原因となるプラスチックごみの約8割が、海ではなく陸地で排出されたものです。その多くは日本をはじめとする東アジア・東南アジアの地域から排出しているため、これらの地域を中心に国際的なチームを作って取り組んでいく事が必要だと思います。

日本のプラスチックごみの量は、アメリカに次いで世界2位です。日本では洋服でも1着ずつ丁寧に透明な袋に包装されています。受け取る側としては、その細やかな気遣いはとても気持ちが良いものです。しかし、これは世間から過剰包装と言われてしまうことがあります。そして、いつでも足りないものがあれば、どこかで買うなどして手に入れることができる、便利な社会になりました。なくてもいいけど何となく買った、すぐ買えるから使い捨てにしようという利便性を追求する私たちのライフスタイルは、プラスチックごみを増やし続ける1つの要因になっているのです。

そこで、海洋プラスチック問題に対して、私たち国民一人ひとりがごみを減らすという意識をすることで、海や私たちの未来を変えることができます。例えば、ごみを地域のルールに沿って分別して捨てる、ごみのポイ捨てをしない、過剰包装を避ける、リサイクルするというものです。地球に住む同じ人間一人ひとりが今、地球で起きている問題に目を向け、お互いに協力しあうことができれば、今よりもっと素敵な世界になると思います。

海に囲まれた国に生まれたのだから、もっと海に興味を持ち、自然に感謝していこうと思っています。